



青森県のダイズにおけるダイズクキタマバエ (*Resseliella soya*) の発生

青森県産業技術センター 農林総合研究所 対馬 しま 佑 介

はじめに

ダイズクキタマバエ *Resseliella soya* は、幼虫がダイズの葉柄や茎の内部を食害し、多発した場合に萎凋や枯死を引き起こすことが知られており(持田, 1992)、主に明治～昭和中ごろにかけて北海道や東北地方で多発し、皆無作を引き起こしたとされる(湯浅, 1936; 櫻井・西島, 1953; 菅原, 1953)。

そのような被害の著しさからか、1953年出版の「大豆害虫の分布と害相」(桑山, 1953)には、「大豆害虫として最も恐るべきものの一である」とあるが、近年は当時のような大発生は確認されていないことから(持田, 2003)、被害症状や虫体そのものを掲載した資料も少なくなっている。

2017年9月5日に青森県内陸部の山間地に位置する大鰐町担当の農協職員より、「ダイズ圃場全面で萎れが発生し、萎れたダイズの茎の中に虫がいる」との連絡があり、現地で状況を確認したところ、ダイズの茎内から乳白色あるいは橙赤色のダイズクキタマバエ幼虫が大量に見いだされた。本種の青森県における発生は1938年の記録があるものの(吉田, 1950)、その後の発生については不明となっていた。そこで、青森県におけるダイズクキタマバエの発生状況について2017、18年の2か年調査し、いくつかの知見を得たので紹介する。なお、本稿は対馬(2019)の内容を一部改編したものである。

I 被害症状と種同定

1 被害症状

2017年9月11日に津軽地方山間部の大鰐町居土高野新田のダイズ‘おおすず’で被害症状を調査した。特徴的な症状として、下位葉の枯死、上位の複葉(数枚からすべて)の萎凋・枯死および小葉裏面の葉脈上の褐変が認められた(図-1a)。また、葉柄部分に不定形の褐色斑を呈する場合もあり、このような葉柄を縦裂すると褐変し

た内部に多数の幼虫が確認された(図-1b, c, d)。

2 種の同定

2018年8月2日に大鰐町居土猿倉(以下、猿倉)と居土高野平(以下、高野平)のダイズ‘おおすず’から得た老齢幼虫各1頭を供試した。DNA抽出にはDNeasy Blood & Tissue Kit (Qiagen)を使用した。プライマーはLCO1490 (5'-GGTCAACAAATCATAAAGATATTGG-3'), HCO2198 (5'-TAAACTTCAGGGTGACCAAAAAATCA-3') (FOLMER et al., 1994)を用い、ミトコンドリアDNA



図-1 大鰐圃場におけるダイズクキタマバエの被害症状と虫体
a: ダイズクキタマバエ被害茎 b: 葉柄上の褐色不定形斑
c: 葉柄内の中齢幼虫 d: 葉柄内の老齢幼虫 e, f: ダイズクキタマバエ成虫(北日本病虫研報より転載)。

The Occurrence of *Resseliella soya* (Monzen) in Soybean in Aomori Prefecture. By Yusuke TSUSHIMA

(キーワード: ダイズクキタマバエ, ダイズ, 発生消長)